

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学校創立 125 年を超える伝統ある本校の役割は、生徒や保護者・地域・社会の期待に応えるため、生徒の第一に希望する進路の実現を図るとともに、地域・社会に有為で未来を拓きグローバルに活躍するために求められる「確かな学力」と「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」を育成することである。 そのため、「グローバルリーダーズ・ハイスクール (GLHS)」、「スーパーサイエンス・ハイスクール (SSH)」としての責務のもと、生徒にとって有意義で充実した教育活動の展開を追求していく。 ■ 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒 ○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒 ■ 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成 (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保を徹底し、生徒の持つ「学力」を最大限に引き出す。 ア 講習の実施や自習室の開放など、土曜日の時間帯に生徒が主体的に学ぶ環境を整え、土曜日に学習する習慣を身に付けさせる。 イ 「岸高手帳」の活用により、学習習慣の定着と時間管理能力の育成、また、ポートフォリオとして様々な活動を記録する習慣を身に付けさせる。 ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「土曜日を学習時間として活用」の肯定的評価を75%以上に。(新規) (2) GLHS、SSHとして教育活動の充実に取り組み、生徒の「幅広い資質・能力」の向上を図る。 ア 課題研究の充実に図り、生徒の「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」、「協働して取り組む力」などを育成する。 イ 外部と連携した取組みや地域と協働した取組みなどをすすめ、GLHSやSSH等の活動をさらに深化させる。 ウ 「グローバルリーダー養成プログラム」など、海外の大学生等との交流を通じて、国際的な視野を広げるとともに、「英語による表現力」を育成する。 ※ SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を 65%以上に。(R3 60%, R4 63.7%, R5 61.5%) ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「岸和田高校では特色ある教育活動が行われている」の肯定的評価90%以上を維持。(R3 95.1%, R4 92.7%, R5 94.3%) (3) 学校として組織的に、また、教員一人ひとりが授業力の向上に取り組む。 ア 1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、生徒の「確かな学力」の育成をめざす。 イ 教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。 ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 89.0%, R5 90.3%) ※ 授業アンケート項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身に付いた」の平均 3.20以上を維持。(R3 3.24, R4 3.30, R5 3.34) 2 「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」 (1) GLHS、SSH等の活動を通して、生徒が高い志を持ち、自らの将来像について主体的に考えるよう働きかける。 ア 大学・研究機関等への訪問等を通して、生徒が視野を広げ、学習意欲を高めることにより、「主体的に学ぶ力」を育む。 イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施により、生徒が高い志を持ち、早い段階で自らがめざす将来像を描けるようにする。 ※ 大学・研究機関等への訪問、各種講演や研修、実習など、それぞれの取組みに対する生徒の肯定的評価を 90%以上に。 (2) 第一に希望する進路の実現をめざし、生徒が高い志を持ち続けることができるよう指導・支援する。 ア 学力診断や模擬試験等を定期的実施し、生徒が自らの実力を把握するとともに、教員がその結果に基づき適切な進路指導を行う。 イ 「岸高スーパークラス」、「岸高ハイレベル講習」など、高い志をもった生徒が互いに切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整える。 ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」の肯定的評価90%以上を維持。(R3 95.4%, R4 94.1%, R5 94.5%) ※ 国公立大学進学者の割合を50%以上に。(R2-R3で52.4%, R3-R4で44.8%, R4-R5で45.7%) 3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備 (1) 「文武両道」をめざし、学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。また、部活動において「リーダーとしての資質・能力」を育む。 ア 生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実に図り、生徒の「豊かな感性」を育む。 イ 部活動を奨励するとともに、部活動においてリーダーとしての資質・能力を育む。 ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価90%以上を維持。(R3 91.4%, R4 93.1%, R5 92.8%) (2) 生徒一人ひとりが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に努める。 ア 社会人としてのマナーを身に付け、自他の人権を尊重する人権感覚を醸成するなど、「高い人間性」を育む。 イ 生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。 ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実に図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。 ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R3 82.1%, R4 81.4%, R5 84.7%) ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価90%以上を維持。(R3 87.6%, R4 90.9%, R5 92.0%) ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価65%以上を維持。(R3 62.5%, R4 64.4%, R5 71.8%) (3) 学校として組織的に校務運営の効率化を推進し、教員一人ひとりが教員としての資質・能力を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保する。 ア 各分掌、各学年が行う行事や取組みなどについて、課題を洗い出すとともに、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。 イ 各部活動が「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日を設定することで、時間外在校等時間の縮減を図る。 ウ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理に努める。 ※ (教職員向け) 学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R3 66.7%, R4 83.9%, R5 80.0%) ※ 時間外在校等時間が月当たり80時間以上となる教員の人数を前年度より減少させる。(12月末までの月当たり80時間以上：R3 7人, R4 5人, R5 5人) 4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上 (1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果などを積極的に広く発信する。 ア 様々な機会を通じて、また、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。 イ 学校Webページ「岸高’e’博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校所蔵の資料のデジタル版「岸コレ」などを発信する。 ※ (保護者向け) 学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価90%以上を維持。(R3 94.8%, R4 91.9%, R5 93.8%) ※ 学校Webページ「岸高’e’博物館」へのアクセス数を前年度より増加させる。(12月末までのアクセス数：R3 13,000人, R4 11,000人, R5 7,827人) (2) 地域の学校や団体等との連携を密にし、地域を中心とした社会参画意識の向上を図る。 ア 地域の幼稚園や小学校等との交流などを行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。 イ 地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。 ※ 生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。(R4 5本, R5 5本)
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学校生活全般】 - 生徒の「1 入学して満足している」は89.4%と一昨年度の数値に戻った。一方、生徒の「14 学校に行くのが楽しい」は変わらなかった。すなわち、「学校は楽しいが、満足はしていない」という生徒が増えたことになる。特に、「3 授業に満足している」の数値が下がったことから、授業をはじめとした学習面に対して不満を感じる生徒が増えたことが最大の要因だと考える。引き続き、学習に対する指導・支援を含めた教育活動の充実、教育環境の整備に取り組んでいきたい。 【指導方針】 - 生徒の「2 授業や部活動に熱心な先生が多く、その指導方針に納得できる」、保護者の「5 指導方針全般に共感できる」はともに、昨年度が最高値となり、今年度は微減した。今後、改善すべき意見の把握に努め、取組を進めていきたい。 - 保護者の「2 学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」は、この3年間で最も高い数値となった。来年度も継続して、本校の教育方針や教育に対する校長の考えを理解してもらえるような機会や取組の充実を図っていきたい。 【学習指導】 - 生徒の「3 授業に満足している」は86.0%と数値を下げた。さらに、保護者の「3 授業が分かりやすいと言っている」も、78.5%と数値が大きく下がった。この授業に対する満足度の低下が上記の「学校は楽しいが、満足はしていない」との意見につながっていると考えられる。今回の自由記述や授業アンケートでの意見を受け止め、すべての教員の教科指導力の向上に向け、取り組んでいく。 - 生徒の「7 1人1台端末を積極的に活用している」は93.8%まで上昇した。今後さらに1人1台端末が効果的なツールとなるよう取組をすすめていきたい。 「6 課題研究をはじめとする探究的な学習や特色ある教育活動が行われている」は、生徒、保護者とも3年連続で数値が上昇し、95.5%、97.0%となった。この項目は「探究的な学習」と「特色ある教育活動」の2つの内容が含まれているが、どちらもこの間の取組の充実が上昇の要因として考えられる。課題研究についてはSSH第Ⅲ期からの「文理融合型課題研究」や「縦割り型課題研究」などの新たな取組が、特色ある教育活動については海外研修（オーストラリア研修、イギリス研修）の実施が数値の上昇に寄与したものと考える。今後もGLHSとして、またSSHとして、課題研究や様々な特色ある教育活動の充実に努めていきたい。 - 生徒の「10 土曜日は学校や家庭において、学習時間として活用している」は、66.1%であった。部活と勉強の両立に向けて、学習時間の確保が求められる中、学習習慣の定着が大きな課題である。学習時間の保障に向け、取組の工夫・改善を行うとともに、生徒には継続して時間の有効活用を訴えていきたい。 【進路指導】 - 生徒の「9 将来の進路や職業などについて、講演会や説明会を実施するなど適切な指導をおこなっている」は95.5%と、ここ3年で最も高い数値となった。今年度から「進路HR」として進路に係るホームルームを増やしたことが要因の一つだと考える。今後も生徒たちが具体的な目標、「高い志」をもって学習に取り組むことができるよう、生徒に対する適切な進路指導を3年間で計画的に実施するとともに、保護者の方に対する進路に関する丁寧な情報発信と相談体制の構築を図っていきたい。 【生徒指導】 - 生徒の「12 あいさつやマナーを守る指導を行うことで社会人としてのモラルを守る態度を育てるとともに、いのちの大切さを学ぶ機会がある」は85.1%、保護者の同様の項目については83.6%であり、いずれもこの3年間で最も高い数値となった。今後も引き続き、あいさつやマナー指導をはじめ、すべての教員が生徒に対する指導の重要性を認識したうえで、学校の指導方針に基づき一致した指導が行えるよう取り組んでいきたい。 【教育相談】 - 生徒の「8 いじめなど私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は93.3%、生徒の「11 保健室や相談室などで気軽に相談できる」は72.3%と、いずれも3年間で最も高い数値となった。学習面や人間関係など悩みを抱える生徒が一定数いる中、さらに生徒が相談しやすい体制づくりに努めていきたい。 【学校行事・部活動】 「4 文化祭や体育祭、校外学習などの学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加している」の項目については生徒が92.9%、保護者が95.3%であり、高い数値を維持している。 - 生徒の「5 部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加している」は95.6%となり、3年間で最も高い数値となった。 【発信・広報】 - 生徒の「13 メールサービスやクラスルーム、ホームページ、校長ブログ等によって、学校の情報が発信されている」は93.2%、保護者の同様の項目については92.3%であった。昨年度から校長ブログの充実を図るとともに、今年度はホームページの更新に努め、また、インスタグラムを新たに開設した。今後も、本校の教育活動に関する発信により一層、尽力していきたい。 【PTA活動等】 - 保護者の「9 学校行事やPTA活動に参加したことがある」は75.0%と、一昨年度の55.1%から20%増加した。実際に、多くの保護者の方に、文化祭や体育祭をはじめとした学校行事やPTA活動などにご来校いただいたとの実感があった。 - 一方、保護者の「10 懇談や家庭連絡などを通じて、保護者と相談しやすい体制を作っている」は75.1%となり、昨年度より約10%下げてしまった。この結果を学校として真摯に受け止め、下げた要因についての検証と改善をすすめ、今後はより一層、こまめな家庭連絡をはじめ、保護者の方と一緒に生徒への指導・支援を行うことができるようにしていきたいと考えている。	第1回（5/15） ○学校からの説明 「令和6年度学校経営計画及び学校評価」、「スクール・ミッション」、「スクール・ポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」、「令和5年度学校教育自己診断の結果」、「GLHS卒業生アンケート（H25～R5）」、「課題研究」、「グローバルリーダー養成プログラム」、「広報」などについて資料を用いて説明したが、特に意見は出なかった。 ○進路に関連して - 浪人生が昨年36名から今年は50名に増えたことについて、どのように考えているか。他校と比較して、浪人する生徒の割合は多いのか。 →入学時から「第一志望の大学をめざそう」と指導している。昨年度入試では現役志向が強い中、今年度は浪人生のライバルは減ると考えられることから、第一志望の大学入学をめざそうと考える生徒が増えたのではないかと考えている。本校は他のGLHSと比較すると、浪人する生徒は少ないほうである。 - 進路希望について、生徒たちは1,2年次から、自分の実力と目標とする大学の現実をしっかりと見ているか。 →自分の現在の実力で希望大学に合格することの困難さは理解しているが、第一志望の大学をめざし、目標として掲げている生徒が多い。 - 難関大学に合格した卒業生の成績に関する経緯を生徒に伝えてはどうか。 →毎年、校内の模試分析会において卒業生の成績に関する経過を担任に伝え、各担任から生徒たちに指導している。 - 私立大学の学生の中にも、本当は国公立大学に行きたかったが、私立大学への進学を決めた生徒もいる。そのような状況の中、入学したものの、やはり行きたくなかったと言って休学する学生もいる。 - 東京大学に合格した生徒は、当初から成績優秀な生徒であったのか。 →学力トップ層の生徒ではあったが、常に学年1位という生徒ではなかった。愚直にコツコツ頑張るような生徒であった。 - 私の子どもも浪人したが、予備校でも良い教えをもらったり、良い仲間と巡り会えたりして、良い1年を過ごしていたと思う。高校においてもメンタル面の指導をしていってもらえたらと思う。 第2回（11/27） ○学校経営計画の進捗などについて - 岸和田高校の多様な活動が、今の多様な生徒に合っているように感じる。例えば、GLプログラムについても、各家庭の金銭的事情に応じてGLP校内版と英国研修を選べるようになってきているのがよいと思う。 - 一方、様々な取組を行っている中、先生方の超過勤務削減についてはどうか？またストレスチェックはどうか？ →時間外在校等時間について直近の2年間は数値の上で改善傾向にある。昨年度平均時間は前年度と比べ、およそ15%減となった。ストレスチェックについても、校内平均の値はこの2年間、大きく改善している。 - 昨年度の実績で5人に1人が浪人している。浪人生の成果はどうか。 →全員ではないが本人が志望した大学に合格した生徒も多にいる。 - 大学進学実績について、私自身は思ったより現役進学者が多い印象を受ける。関東の大学への進学は少ないように感じる。生徒たちはもう少しチャレンジしてはどうかと思う。 - 生徒用ロッカーを設置していない理由は何か。 →2年前、前向きに設置に向けて検討したが、設置場所がなく、また、教室、廊下が狭く、安全面の観点からロッカー設置は断念せざるを得ないと判断した。このことについては、昨年度の1学期終了前に保護者あて文書にて伝えた。 - 幼稚園での教育において「これってなんだろう？」「不思議だな」って思う子どもたちの気持ちを大事にしていくことが、高校生になった時の課題研究などにつながるように感じた。今後の教育活動に繋げたい。 第3回（2/12） ○学校教育自己診断の結果と分析について - 生徒たちの期待に応えるためには、生徒たちが岸和田高校に期待しているということを教員が理解することが大事である。 - 各教科の課題の量が多いとのことだが、教員はそのことについてどのように考えているのか。教科間での連携を取ることが必要ではないか。 - 部活動入部率が高い中では、勉強と部活動の両立が課題となる。部活動を熱心にしながらも、部活動の顧問から学習を大事にするようにといった指導をするとういのではないか。 ○令和6年度学校経営計画及び学校評価について - 平日でも朝の就業前の時間と放課後の生徒下校時刻までの時間を考えると2時間程度の時間外となり、月20日と考えるとそれだけで40時間となる。そうしたことを考えても、これ以上、今後も減り続けることは難しいのではないか。 ○本校独自の取組みについて 「スーパークラス」について、入れ替えるような制度を設けたほうがよいのではないか。次のチャンスがなければ、自己肯定感の低下につながるのではないか。 「スーパークラス」について、2,3名でも追加することができないのか。もしくはクラス数を増やすことはできないのか。 - 私立高校の中には入学後の成績の状況や進路希望の変化などにより流動的な対応をとれることが魅力となり、成果を上げている学校もある。府立高校も柔軟に対応できる仕組みがあるとよい。 - 生徒や教員に学力の数値で分けるという意識を持たせるのではなく、「個別最適な学び」を提供するために設置しているのだということを伝えるとよい。 - 競争心を持たせることは大切であるが、それによって苦しくなってしまう生徒が出る可能性があるため、メンタルケアも必要になる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア 「土曜学習タイム」実施による土曜日の学習習慣の定着 イ 「岸高手帳」の活用による学習習慣の定着	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・土曜日の時間帯に講習の実施や自習室の開放など、生徒が主体的に学ぶ環境を整えることで、土曜日に学習する意識を高め、習慣を身に付けさせる。 イ ・「岸高手帳」の活用により、学習習慣の定着と時間管理能力の育成を図る。	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日を学習時間として活用」の肯定的評価を75%以上に。[新規] イ ・「岸高手帳」の活用度について「活用している」「まあまあ活用している」を35%以上に。[31.0%]	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・肯定的評価は 66.1%であり、新規に立てた75%以上という目標には達しなかった。学習時間の確保に向けた学習習慣の定着が課題となる中、生徒のさらなる学習意欲の向上を図りたい。(△) イ ・「岸高手帳」の活用度は31.7%であり、昨年度よりやや上昇したが、目標の 35%には達しなかった。引き続き、スケジュール管理の重要性を訴えていきたい。(△)
	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア 課題研究の充実 イ GLHSやSSHの活動のさらなる深化	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・課題研究を「縦割り型課題研究」及び「文理融合型課題研究」として充実させ、「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」などの育成を図る。 イ ・外部との連携や地域での協働等により、GLHS や SSH の活動をさらに深化させる。	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を65%以上。[61.5%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「特色ある教育活動がある」の肯定的評価90%以上を維持。[94.3%]	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・SSH アンケートによる肯定的評価は 66.3%であり、目標を達成した。引き続き、課題研究を行うことの意義や疑問を持つことの大切さなどを伝えるとともに、課題研究のさらなる充実に努めていきたい。(◎) イ ・「特色ある教育活動がある」の肯定的評価は95.5%であり、数値はさらに向上した。さらなる充実に努めていきたい。(◎)
	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア 1人1台端末を活用した授業改善の取組み イ 教員一人ひとりによる「授業振り返りシート」を活用した授業改善の取組み	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。 イ ・教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき、課題の洗い出し、改善方策の策定、成果検証を行う「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価90%以上を維持。[90.3%] イ ・授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価 3.30以上を維持。[3.34]	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は93.8%に上昇し、目標を達成した。効果的な授業を目的とした活用をすすめていきたい。(◎) イ ・授業アンケートの項目8,9の肯定的評価は3.33であり、目標の3.30以上を維持した。引き続き、すべての教員が生徒一人ひとりの学力向上をめざして毎時間の授業に向き合い、教材研究に尽力するよう、授業改善に向けた組織的な取組をすすめていきたい。(○)
	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 大学・研究機関等への訪問の実施 イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・京都大学キャンパスガイドや大阪大学ツアー、東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーなどの参加を奨励する。 イ ・卒業生による職業講話や大学教授等の出前講義などを実施し、生徒に将来について考える機会を与える。	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーへの参加生徒の肯定的評価 95%以上を維持。[100%] イ ・卒業生による職業講話、大学教授等の出前講義への参加生徒の肯定的評価 90%以上を維持。[いずれも90%以上]	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーに参加したすべての生徒が「とても満足している」、「満足している」と答え、肯定的評価は 100%であった。(○) イ ・各種講演会に参加した生徒の満足度は高く、肯定的評価は 90%以上(卒業生による職業講話は 91.5%、大学教授等の出前講義は 91.3%)であった。(○)
	(2) 第一に希望する進路の実現 ア 進路指導の充実 イ 「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」の実施	(2) 第一に希望する進路の実現 ア ・学力診断や模擬試験等の結果を踏まえた適切な進路指導を行う。 イ ・「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」など、高い志をもった生徒が切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整備する。	(2) 第一に希望する進路の実現 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価 90%以上を維持。[94.5%] ・国公立大学進学者の割合を 50%以上に。[R4-R5で 45.7%] イ ・「岸高ハイレベル講習」について、生徒アンケート「受講してよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに85%以上を維持。[95.4%、87.9%] ・「岸高スーパークラス」について、生徒アンケート「クラスに入ってよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに90%を維持。[95.7%、98.5%]	(2) 第一に希望する進路の実現 ア ・「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価は 95.5%に上昇した。今年度取り組んだ「進路 HR」の充実が数値上昇に寄与したものとする。(◎) ・国公立大学進学者の割合は 50.5%であった。(○) イ ・「岸高ハイレベル講習」は、「受講してよかった」、「実力がついた」ともに 72.9%であった。大きく評価を下げた要因について検証し、次年度に向けて改善を図りたい。(△) ・「岸高スーパークラス」は、「クラスに入ってよかった」が96.9%、「実力がついた」が90.7%であった。(○)

府立岸和田高等学校

3「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア 生徒が主体的に取り組むことができる活動の充実 イ 部活動の奨励と部活動におけるリーダーとしての資質・能力の育成 (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア 社会人としてのマナー、人権感覚の育成 イ 安心して学ぶことができる学習環境づくり ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実 (3) 校務運営の効率化の推進 ア 各分掌、各学年が行った取組みに関する検証と業務改善 イ 「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日の設定 ウ 全校一斉定時退庁日の徹底	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・校外学習、文化祭、体育祭、合唱コンクールなど、生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図る。 イ ・部活動員を対象とした研修を実施する。 (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・社会人としてのマナーや自他の人権を尊重する人権感覚など、「高い人間性」を育む。 イ ・生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。 ウ ・教育相談室の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。 (3) 校務運営の効率化の推進 ア ・各分掌、各学年が行った取組みについて、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。 イ ・各部活動が「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日を設定することで、時間外在校等時間を縮減する。 ウ ・全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理を行う。	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.9%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.8%] ・部活動員対象の研修を1回以上実施[2回実施] (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[84.7%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.0%] ウ ・(生徒向け)学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価 65%以上を維持。[71.8%] (3) 校務運営の効率化の推進 ア ・(教職員向け)学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[80.0%] イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)の人数を前年度より減少させる。[5人] ウ ・時間外在校等時間の月当たり時間数(12 月末まで)の全教員平均を前年度より5%削減させる。[44.4]	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価は 92.9%であり、昨年度とまったく同じ数値であった。(◎) イ ・「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価は 95.6%と大きく上昇した。実際に本校では、部活動に加入しているのべ生徒人数の割合は 95%を超えている。(◎) ・運動部員対象の研修を 10/10 に 1 回実施。(○) (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価は 85.1%であった。生徒に対し、あいさつやマナー指導など、全教員が一致して指導を行っていきたい。(◎) イ ・「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価は 93.3%であり、この3年間で最も高い値となった。安全で安心な教育環境に向け、さらなる向上をめざしたい。(◎) ウ ・「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価は 72.3%であり、昨年度大きく上昇した数値をさらに上回った。より一層、生徒が相談しやすい体制づくりに努めていきたい。(◎) (3) 校務運営の効率化の推進 ア ・「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価は 83.3%となり、昨年度下がった数値を改善することができた。(○) イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)は昨年度と同じ5人であり、80 時間以上の人数を減らすことはできなかった。(△) ウ ・時間外在校等時間の月当たり時間数(12 月末まで)の全教員平均は 40.0 時間であり、10%削減した。(◎)
4「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア 様々な機会、様々な手段による教育活動の積極的な発信 イ 学校Webページによる探究学習の成果、岸和田高校教育コレクションの発信	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・様々な機会、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。 イ ・学校Webページ「岸高 ’e’ 博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校が所蔵する資料のデジタル版「岸コレ」などを継続して発信する。	(1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・(保護者向け)学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価 90%以上を維持。[93.8%] イ ・学校 Web ページ「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)を前年度より増加させる。[7,827 人]	(1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価 92.3%であり、微減したものの 90%以上を維持することはできた。(○) イ ・「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)は 7,895 人と微増した。(○)
	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園や小学校等との交流による社会参画意識の向上 イ 地域の公的機関やNPO等と連携した地域の課題解決や発展に貢献できる取組	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。 イ ・地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を2回以上実施。[2回] イ ・生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。[5本]	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園との交流を1回、小学生を対象とした「こどもクッキング」を1回実施した。(○) イ ・2年生文理課題研究において、地域の課題をテーマとした課題研究は7本であった。地域のNPO の方たちなどの協力を得た成果だと考える。今後も、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高めることができるよう働きかけていきたい。(◎)